

コロナ禍における オンラインイベント実施の取り組み

京都大学 学術研究支援室

○菅井佳宣、田上款、大西将徳、
豊田裕美、川口利奈、伊藤健雄

京都大学

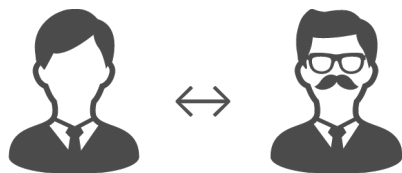


■ 背景

- 新型コロナウイルス感染症は世界的な大流行となり、研究支援の現場でも活動自粛により様々な面で制約を受けている。
- オンラインツールを用いた面談やイベントが直接対面の代替として実施されているが、ノウハウや効果に関する知見は限られている。

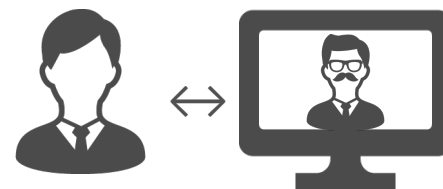
- 説明会
- ワークショップ
- 模擬ヒアリング
- 研究者との面談

Before コロナ



基本的にオフライン
・オンサイト

With コロナ



オンラインツールで代用

■ 背景

- 京都大学 学術研究支援室（KURA）では2020年春から主にZoomを使用したオンラインでの支援活動に取り組んでいる。
- ここでは主に2020年春～夏のオンラインでの申請支援活動と、これまで工学研究科を中心に開催してきた説明会のオンライン化に関して取り上げる。また、オンライン面談を実施する中で見えてきた課題についても触れる。

オンラインでの申請支援活動

1. 説明会
 - 科研費等制度説明会、工学研究科対象説明会
2. 説明会以外の支援
 - 模擬ヒアリング、学振特別研究員支援、覆面对談会
3. 面談
 - 各種申請支援時

■ 1. オンライン説明会 背景

- KURAでは毎年春に全学の研究者を対象に科研費 研究活動スタート支援（研スタ）公募要領等説明会を開催していた。これまではメインキャンパス（吉田キャンパス）でのみ開催していたため、遠隔地からの参加は限られていた。
- また、工学研究科担当チームでは研究科所属研究者のニーズに合わせた研究資金獲得に関する説明会を毎月開催していた。工学研究科がある遠隔キャンパス（桂キャンパス）が開催場所だったため、他研究科からの参加はほとんど無かった。
- 2020年度は上記説明会を全てZoomのウェビナーにより開催した。

■ 1. オンライン説明会 開催方法

使用アプリケーション：Zoomウェビナー

運営体制：説明者1～3名、運営補助1～3名（最小運営人数2名）

運営側の配信方法：

マイクオン、カメラは冒頭と最後のみオン/説明時はオフ

視聴者の参加方法：

マイクオフ、カメラオフ

質疑応答の方法：

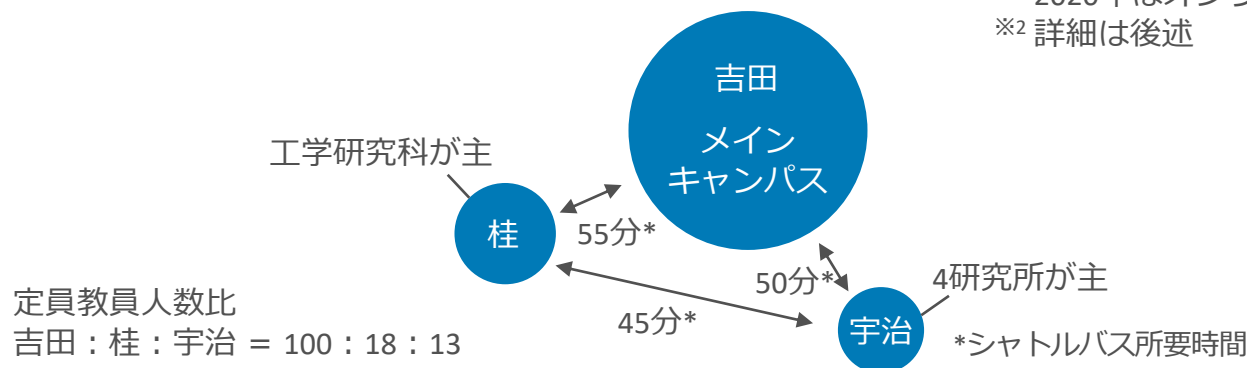
- ZoomのQ&A機能を使用し視聴者がテキストを打ち込み、説明者が口頭で回答する形式で主に対応
- 運営人数が多く質疑応答用人員を揃えられる場合はテキストで返答することも
- 質疑の時間に余裕がある場合はZoomの挙手機能を使用して視聴者から質問の意思を表明してもらい口頭で質問を受けることも

1. オンライン説明会 参加者数

カテゴリ	内容	2020年度 参加者数※1 開催日時	2019年度 参加者数※1 開催日時、場所	備考
科研費	研スタ 公募 要領等説明会	71名 4/10 11:00-12:00, 4/13 11:00-12:00 オンライン	108名 4/10 11:00-12:00, 4/15 18:00-19:00 @吉田キャンパス	2020年は準備が間に合わず 広報期間が短縮
工学説明会 シリーズ	CRESTさきがけ ACT-X 説明会	107名 4/15 11:00-12:00 オンライン	49名 4/19 16:00-17:00, 4/22 16:00-17:00 @桂キャンパス	2019年は吉田キャンパスでも 同説明会を開催し84名が参加
工学説明会 シリーズ	民間財団助成 説明会	90名 5/26 16:00-17:00, 5/27 14:00-15:00 オンライン	27名 5/28・29 16:00-17:00, 5/29 10:00-11:00 @桂・宇治キャンパス	
工学説明会 シリーズ	JST創発事業 説明会	189名 6/9 10:00-11:00, 6/12 13:30-14:30 オンライン	相当する説明会なし	
工学説明会 シリーズ	民間財団助成 覆面对談会※2	54名 8/24 16:00-17:00 オンライン	相当する説明会なし	視聴範囲を桂および 宇治キャンパス研究者に限定

※1 2020年はオンライン開催、2019年はオフライン開催

※2 詳細は後述



1. オンライン説明会 効果

● オンライン説明会全般

- 会場に行かずとも説明を聞けることから開催方法は好評で、アフターコロナにおいてもオンライン開催を望む意見が大多数だった（専らオフラインでの参加を希望する回答は全体の1%程度）。
- 以前は説明会参加者にのみ紙媒体で配布してた説明資料を学内限定でオンライン公開したところ、説明会視聴者以外からも好評だった。

● 科研費説明会

- これまで各キャンパスでの開催ニーズがあったが、オンライン化により1～2回の開催でカバーできるようになった。

● 工学説明会シリーズ

- オンライン開催により他キャンパスからの参加障壁が無くなったことで参加者の間口が広がり、参加者数も増加した。

2020年度 平均参加者数	2019年度 平均参加者数	備考
110.0名	32.4名	2020年は4回開催分の、2019年は14回開催分の平均

■ 1. オンライン説明会の利点、課題

<利点>

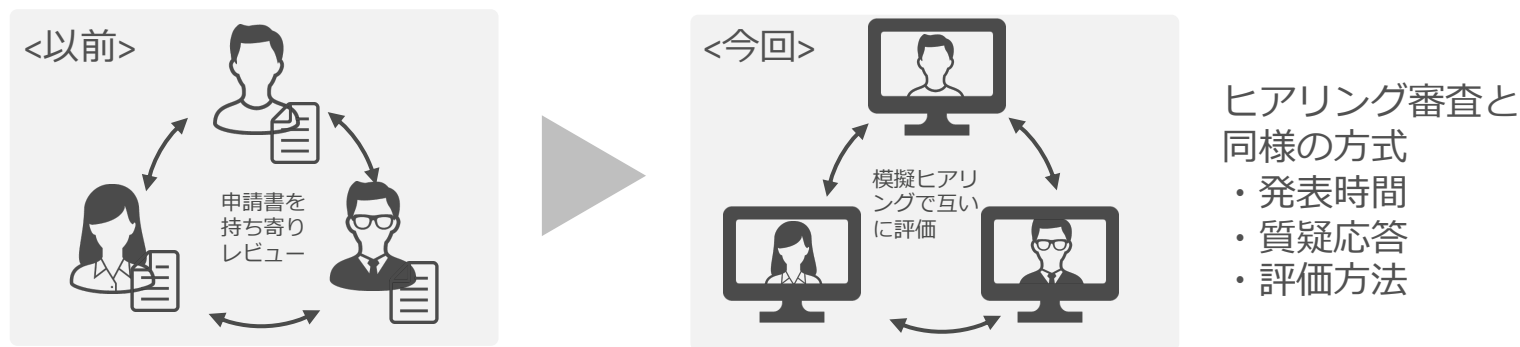
- 視聴者の参加のしやすさの点で大きなメリットがあった。
- ZoomのQ&A機能を使用することで、説明中から質問を入力できる点や、文章化により質問の焦点が明確になり散漫な議論を避けられる点で質疑応答がスムーズになった。

<課題>

- アンケートの回収率が低く、フィードバックを得られにくい
（オフライン時：70%以上、オンライン：最大約50%）。
- オフライン説明会では終了後に個別に会話をしやすかったが、オンラインではメールで受け付けるため個別相談のハードルが上がった。

■ 2. 説明会以外の支援 学振特別研究員

- KURA工学研究科担当チームでは、これまで学振特別研究員申請支援として申請者同士の相互レビューイベントを実施していた（RA協議会第5回年次大会発表）。
- オンラインでは申請書を用いた相互レビューは難しいと判断し、代替方法として模擬ヒアリングを行い申請者同士での相互評価する形式に変更した。



審査委員の視点を経験することによる気づきを得る

6名が説明会に参加、3名が相互評価に参加
→ アンケートは好評だったので、方法をさらにブラッシュアップする

■ 2. 説明会以外の支援 模擬ヒアリング

- 科研費 大型種目のヒアリング審査対策として、大学事務組織とKURAが協力しオンラインでの模擬ヒアリングを実施した。
- JST事業のヒアリング審査ではKURAが模擬ヒアリングを実施している。

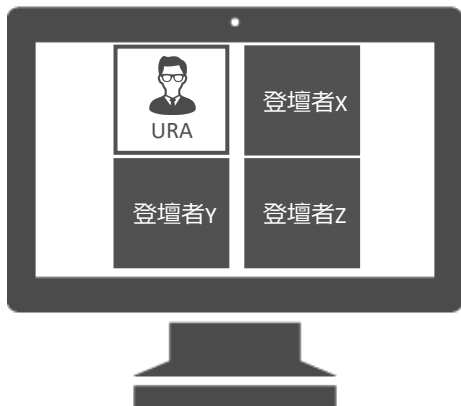


- オフラインと同様にオンラインでも模擬ヒアリングが実施可能だった。
- 科研費模擬ヒアリングに関しては、説明動画の作成支援ニーズもあることが確認された。
- 参加したURAからは、オフラインと比較すると緊張感などの点で印象が異なる、といったフィードバックも得られた。

→ フィードバックの蓄積と実施方法のブラッシュアップを行っていく

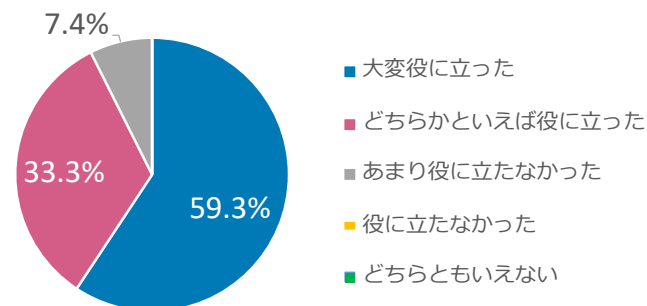
■ 2. 説明会以外の支援 覆面对談会

- オンラインツールではカメラオフおよび発表者名の表示を工夫することで容易に匿名のイベントをセッティングすることができる。この特徴を活かし、審査員経験談など**自身の意見を発言しにくいテーマ**に関するイベントに匿名で登壇してもらうことで、オフラインでは話題にしづらい情報を提供できると考えた。
- 2020年8月に、工学説明会シリーズとして民間財団助成をテーマに審査員経験者および採択経験豊富な研究者の覆面对談イベントを開催した。



特定の財団の情報提供にならないよう、
また、登壇者の匿名性が保たれるよう配慮

本日の説明に関して、満足度をご入力ください。[回答 27件]



[参考]

2020年度 民間財団助成に関してURAが説明した会のアンケート
大変役に立った：50.8%、どちらかといえば役に立った：49.2%

視聴者からの感想

- ・ 審査員経験者の談話は通常聞けない話だったので有意義でした。
- ・ オンライン＆登壇者覆面で開催されたことで、登壇者から正直な話が聞けたように思います。

→ 「大変役に立った」という意見が多く、**期待された効果が得られた** 10

■ 3. オンライン面談

- 科研費やJST事業などの申請支援時には可能な限り面談を行い研究構想に関してディスカッションを行ってきた。
- KURAでは新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、これまで主に対面で行ってきた面談をオンラインに切り替えて実施してきた。
- 約半年間実施した中で得られたメリット、デメリットが見えてきた。

<メリット>

- ・ 実施しやすい（スケジュール調整のしやすさ、遠隔地からの参加しやすさ）

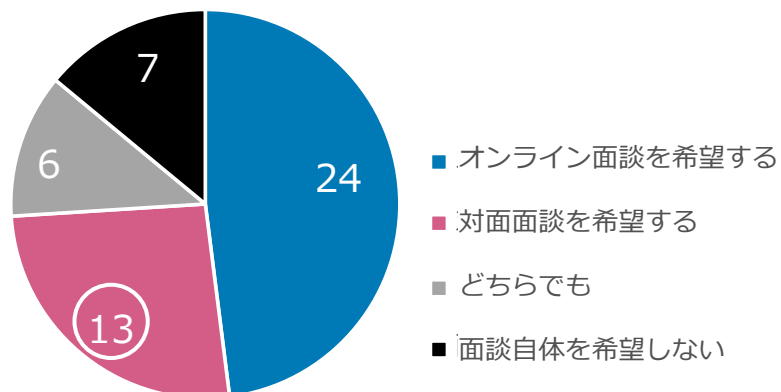
<デメリット>

- ・ 密な意思の疎通がしにくい（会話のしやすさ、感情のよみとりやすさ）

3. オンライン面談

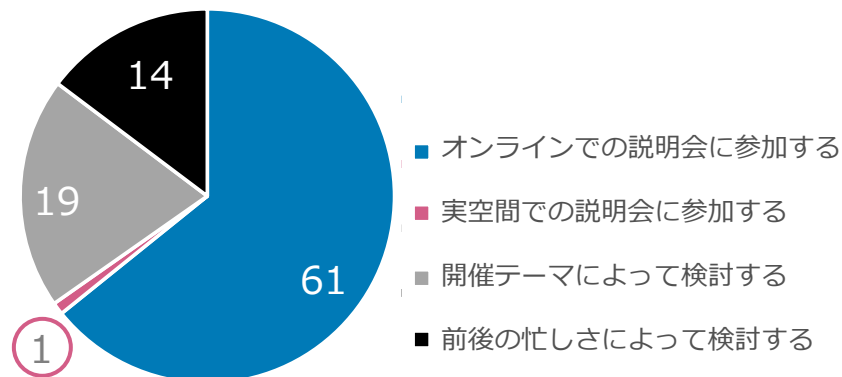
- 申請支援を受けた研究者に対して、次回はオンラインと対面面談のどちらを希望するか、アンケート調査を行った。

次回の申請支援ではオンラインでの面談を希望しますか？今回面談をされなかった方もご回答下さい。



[参考]

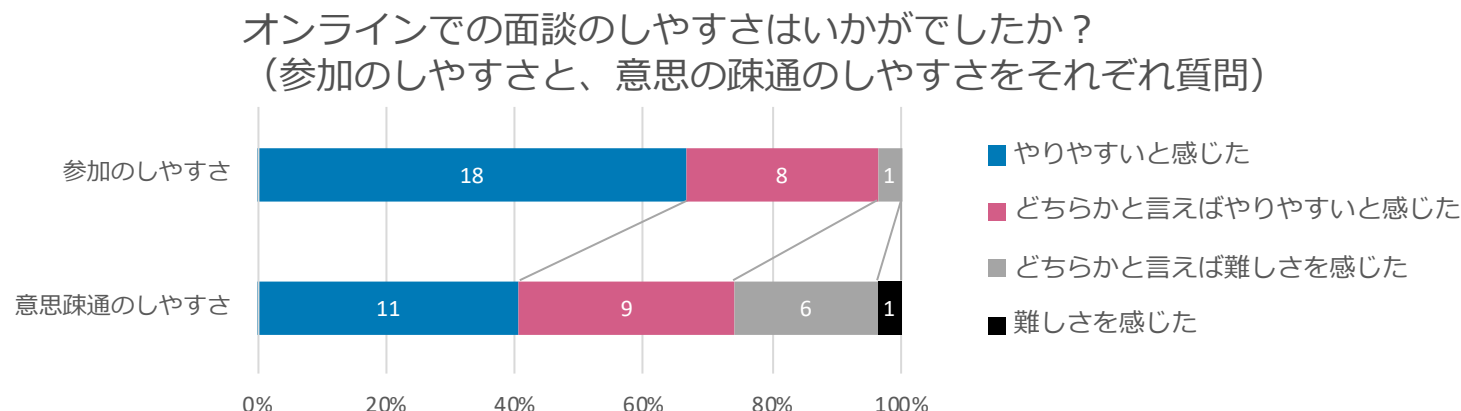
オンライン説明会アンケートで次回開催方法の希望調査結果
(創発説明会の例、回答95件)



説明会はオンライン実施が望まれているが、
面談は対面を希望する意見が一定数ある。

3. オンライン面談

- 申請支援を受けた研究者に対して、オンライン面談のしやすさについてアンケートも行った。



→ 意思の疎通に課題がありそう

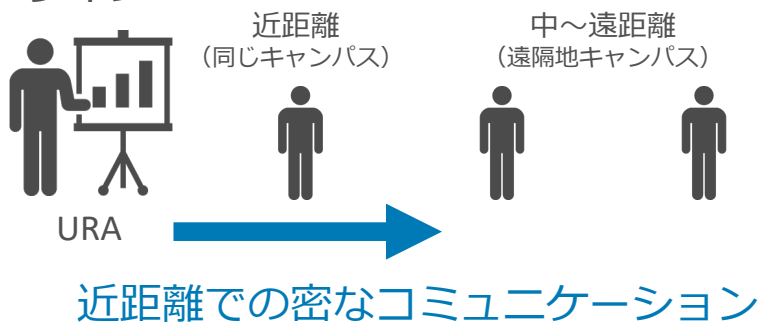
→ オンライン面談時のURAの工夫（下記一例）を共有し、質の向上に取り組む。

- 3～5名以上で面談する際は司会者を決めて質疑応答等が円滑に進むようにする
- URA間で事前に議題や進め方を情報共有したり、URAだけ早めに繋いで打ち合わせをする
- 面談前にブラッシュアップコメントを書き込んだwordファイルを作成しておく
- 通常時の面談よりも多めに「声に出して」相槌を打つようにする

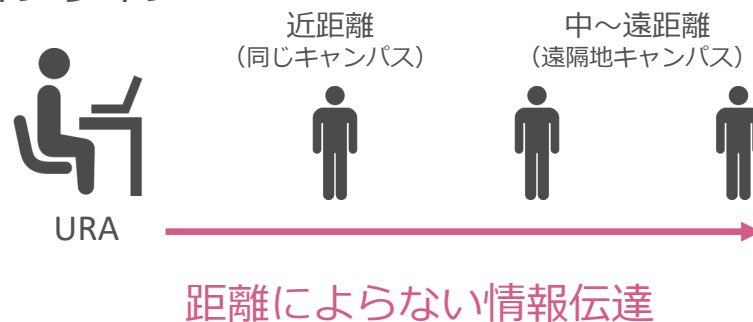
■ まとめ

- 新型コロナウイルス感染症の対策のため、約半年の間オンラインツールを使用して、説明会や面談などの支援活動を行ってきた。
- オンラインツールはアクセスのしやすさ等でメリットがある一方で、密なコミュニケーションを行うためには工夫が必要な場面があることがわかってきた。

<オフライン>



<オンライン>



その他、研究者からはウェビナー開催のノウハウ提供のニーズもあるため、研究者向け実施方法マニュアルの作成等も進めていく。